

建築家憲章

建築家は、自らの業務を通じて先人が築いてきた社会的・文化的な資産を継承発展させ、地球環境をまもり安全で安心できる快適な生活と文化の形成に貢献します。

（創造行為）

建築家は、高度の専門技術と芸術的感性に基づく創造行為として業務を行います。

（公正中立）

建築家は、自由と独立の精神を堅持し、公正中立な立場で依頼者と社会に責任を持って業務に当たります。

（たゆみない研鑽）

建築家は、たゆみない研鑽によって自らの能力を高め役割を全うします。

（倫理の堅持）

建築家は、常に品性をもって行動し倫理を堅持す。
社団法人日本建築家協会（JIA）会員は上記憲章のもとに集う建築家であり、JIAは会員の質と行動を社会に保障するものです

CONTENTS

■2016年度 中国支部 総括

支部長 龜谷 清

■第10回 中国支部大会

「JIA中国支部建築家大会IN島根2016」

・大会委員長コメント

大会実行委員長 田原辰男

・内容報告

島根地域会

■第8回 JIA中国建築大賞2016

・審査報告

JIA中国建築大賞実行委員長 来間直樹

・総評

審査委員長 内藤廣（建築家）

・受賞作品紹介

■活動報告

・岡山地域会 黒川隆久

・広島地域会 千原康弘

・山口地域会 田尾 繁

・島根地域会 田原辰男

・鳥取地域会 塚田 隆

・卒業設計コンクール 山田孝延

・リフレッシュセミナー 大月 始

・災害対策委員会 村重保則

・福岡の文化と熊本地震から学ぶ交流事業 田中輝幸

■JIA中国支部組織表

■JIA中国支部会員リスト

■交流部会会員リスト

2016年度 中国支部 総括



公益社団法人日本建築家協会中国支部長 亀谷 清

今年度も例年行っている「JIA 中国建築大賞」「中国支部建築家大会」「全国卒業設計コンクールへの出品参加支援」の三つの事業については予定通りで終わることが出来ました。基本方針にであげた「街づくり等一般市民の活動への支援協力」については殆ど出来ていなかったと思います。これは公益社団法人としての活動として大事な活動だと思しますので、今後、各地域会の活動の中で積極的に取り組んでいく必要があると考えます。

支部事業

1、JIA 中国支部建築家大会 2016

田原島根地域会長はじめ島根地域会及び鳥取地域会の会員の皆様及び交流部会の皆様の尽力で成功裏に終わることが出来ました。今年度は一日目、江津市で開催された「江津市庁舎及び江津本町見学会」と「モダンイズム建築と江津市庁舎とを考える」シンポジウムに参加しモダンイズム建築の保存のあり方を考える良い機会になったのではないかと思います。

2、第8回 IA 中国建築大賞 2016

今年度は鳥取地域会の皆さんに担当していただき内藤廣氏を審査委員長として昨年同様の審査員構成で実施されました。8回目を迎え今回は一般建築部門 16 点、住宅部門 13 点計 29 点と沢山の応募を得ることが出来ました。ただ、例年のことですが締切日になっても応募が少なく締切日を伸ばすことで集まったと言うのが現状です、募集の仕方及びPRについて検討が必要に思います。

今年度は一般建築部門で多数の応募がありましたが大賞、優秀賞が無く特別賞のみだったことが残念でした。ただ、今回、特別賞に選ばれた「米子公会堂（耐震補強及び大規模改修）」は今後の耐震改修のあり方に一石を投じるものだと思います。住宅部門について大賞 1 点及び優秀賞 6 点と多数の受賞が目立ちました。

一般建築部門	:	特別賞	1 点
住宅部門	:	大賞	1 点
		優秀賞	6 点

3、全国卒業設計コンクール

今年度も山田孝延教育・表彰委員長の尽力により JIA 岡山学生卒業設計コンクール 2017 から 1 点、広島 8 大学卒業設計コンクールから 4 点計 5 点を全国学生卒業設計コンクールに推薦することが出来ました。

広島県「魅力ある建築物創造事業」への連携協力

今年度はプロポーザルについては協力物件が無く「2016 年度ひろしますまいづくりコンクール」の審査員を派遣しました。

第10回JIA中国支部建築家大会2016 in 島根

■ 大会実行委員長コメント



大会実行委員長 田原辰男

今大会の講演会の会場は江津市、終了後移動して懇親会は大田市のさんべ荘、そして次の日は移動して大田市大森町と参加戴きました会員の皆様には何かとご無理をお掛けし恐縮しております。

また大会を支えてくれた実行委員の各位に敬意を表します。

■ 「モダニズム建築と江津市庁舎とを考える」シンポジウム

この講演会は「公共建築の日」及び「公共建築月間」中国地方イベントとして開催されました。

主催者の目的は1962年に竣工した江津市庁舎はピロティを市民広場とするなど、市民本位の新しい時代の市庁舎のあり方を提案した建築であり、当時の最新技術をもって江津市と建築家と施工者が一つになって実現した庁舎です。

1960年代、地方においては依然として戦後の復興期でもあった時代を背景としながら設計者である建築家吉阪隆正は江津市庁舎に何を現そうとしたのか、市民は何を求めようとしたのか、江津市庁舎の歴史的役割や存在意義を改めて見直しながら、日本各地に残るモダニズム建築と地域との関わりをも考えます。

内藤廣氏は江津市庁舎の印象について「実際に見ると良さがわかる。屋上からは街なみの視界が得られるが、市民に自分の目で自分のまちの変遷をみて欲しかったのではない。吉阪の強い意志を屋上から感じた」また「もしこの建物がなくなってしまうと、どこかの歴史がスパッと抜けてしまう気がする」と話されていたことが強く印象に残りました。

■ 内容報告

□ 大会概要

日時：2016年11月18日（金） 19日（土）

会場：18日（金）

江津ひと・まちプラザ多目的ホール（江津市）

19日（土）

旧大森区裁判所一町並み交流センター（大田市）

後援：島根県

大田市

江津市

（一社）島根県建築士会

（一社）島根県建築士事務所協会

（一社）日本建築学会中国支部

（一社）日本建築構造技術者協会中国支部

（一社）日本建築積算協会中国四国支部

□ プログラム

18日（金）「江津市庁舎とモダニズム建築を考える」

13:30 基調講演 演題：「地域が育むモダニズム建築」

講師：京都工芸繊維大学教授 松隈洋 氏

（DOCOMOMO Japan 代表）

14:45 江津市庁舎の紹介

報告者：江津市都市計画課主任 栗山泰紀氏

15:10～15:20 休憩

2階ギャラリーでは江津市庁舎に関する資料
や石州瓦に関する資料の展示

15:20～17:00 パネルディスカッション

テーマ『吉阪建築と江津市庁舎』

パネラー：

内藤 廣 氏（建築家・東京大学名誉教授）

丸田 誠 氏（島根大学名誉教授

・静岡大学理工科大学教授）

松隈 洋 氏（京都工芸繊維大学教授）

尾川隆康 氏

（島根県建築士会江津支部理事）

コーディネーター：齋藤裕子 氏

（建築家・早稲田大学芸術学校講師）

19:00～21:00 懇親会 国民宿舎さんべ荘（大田市）

19日（土）

9:30～10:30 デザインフォーラム

10:30～12:30 第8回JIA中国建築大賞2016

入賞発表及び講評

13:30～15:30 エクスカーション

石見銀山町並み散策

■ 懇親会

大山隠岐国立公園に位置する三瓶山のふもと国民宿舎さんべ荘で温泉を楽しみ、料理を楽しみ、またアトラクションとして石見神楽（大田市独自の出張神楽）2演目を楽しむ懇親会となりました。尚、2次会を所望される参加者には別室にて楽しんでいただいたところです。

■ デザインフォーラム

島根地域会より宇田川孝浩氏、古山篤志氏の2名が参加しました。

過去参加した島根地域会の方はデザインフォーラムに参加し、大きな糧があったと感想を述べていました。今回参加された2名の今後の活躍を期待しております。

■ エクスカーション

「石見銀山遺跡とその文化的景観」は2007年7月2日にユネスコの世界遺産に登録されました。今回は重要伝統的建造物群保存地区の内、町並み地区を石見銀山ガイドの会の案内で2班に分けての散策となりました。半解体修理中の建屋について（土曜日ではありましたが特別な計らいであったようです）大田市の担当職員から説明があり、また城上神社の拝殿の鏡天井にある極彩色の「鳴き龍」、西性寺鰻絵「鳳凰」他をみてあるき、時間となりました。本日は龍源寺間歩へ連なる銀山地区の散策は時間の都合で出来ませんが、是非、日を改めて来ていただきその折は、今度は温泉津温泉でゆっくり石見神楽を楽しんでいただきたいと思います。

第8回 JIA中国建築大賞2016

■ 審査報告



JIA 中国建築大賞 2016 実行幹事 来間直樹

JIA中国支部では、JIAの建築家憲章の理念『建築家は自らの業務を通じて先人が築いてきた社会的・文化的な資産を継承、発展させ地球環境を守り安全で安心できる快適な生活と文化の形成に貢献します。』に基づき中国5県に造られた作品のうち、優れた建築デザイン、建築文化や環境形成に寄与した建築作品を設計した建築家を顕彰いたします。今回は第8回となり、「第8回 JIA中国建築大賞2016」を一般に公募しました。

応募建築作品は最近10年以内(2006年1月から2016年3月まで)に竣工した建築作品で一般建築部門・住宅部門の2部門とし、審査委員長は建築家 内藤廣先生、審査員は建築家 倉森治先生、建築家 錦織亮雄先生、建築家 前田圭介先生にお願いしました。応募は7月1日から8月24日まで行い、全国の建築家から一般建築部門は17作品、住宅部門は12作品の合計29作品の応募がありました。

9月上旬の厳正な書類審査により一次審査通過作品が決定し、一般建築部門は1作品、住宅部門は7作品の計8作品が現地審査対象作品として絞られました。審査員による現地審査は9月13日と14日の2日間に渡り、島根をスタートし鳥取、岡山、広島へと約600kmを移動しながら行いました。応募者立会いのもと建築主へのヒアリングも行われ、写真だけではわからないディテールや細かい使い勝手。また建築の本質についても審査対象としました。審査員と応募者、建築主との対話を通じ中国建築大賞の意義、重みを実感する事となりました。その後、内藤廣先生、倉森治先生、錦織亮雄先生、前田圭介先生による厳正かつ慎重な選考の結果、一般建築部門は特別賞1作品が、住宅部門は大賞1作品、優秀賞6作品が選ばれました。

11月18日から11月19日にかけて開催された「JIA中国支部建築家大会 IN 島根 2016」にて入賞者発表と表彰式を行い、審査委員長 内藤廣先生、審査員 倉森治先生の審査講評と受賞者による作品紹介を行いました。また、受賞作品のクライアントに対して記念品を贈呈し、建築への理解と協力に感謝の意を表しました。

応募・審査期間中、多くの方々のご協力、ご支援、ご配慮をいただき、この場をお借りして皆様に感謝申し上げます。今後も「JIA中国建築大賞」が中国地方の社会的・文化的な発展を担うことを期待しています。

■ 総 評

審査委員長 内藤 廣

まず、この賞の意義に賛同し応募して下さった建築家たちに御礼を申し上げたい。前川國男が語ったように、JIAは諸氏横議の場なのだから、各氏が精魂傾けた作品を持ち寄り、それを俎上に上げて切磋琢磨する団体であるはずだ。そうした活動のひとつがこの賞だと思っている。普通に考えれば、それぞれ事情も異なり、たいへんな労力を注ぎ込んだ建物を、良いの悪いのと評価すること自体、不遜の極みとも言える。しかし、こうした場なしには、長い目で見て中国地方独自の建築文化を生み出すことはできない。そのための横議の場として、失礼を承知であれこれ言うことをご容赦いただきたい。

■受賞作品紹介

審査委員長 内藤 廣 (建築家)

■一般建築部門

・特別賞「米子市公会堂」



一般建築部門は、今回は振るわなかった。毎年のことだが、この賞の現地審査は過酷だ。500km～700kmを、建物を見ながら限られた時間で走破しなければならない。このスケジュールを押しても、どうしても見に行かなくては、と思わせるだけのものがなかった。一般建築部門には年によって波がある。応募数は景気の動向にも左右されるところがある。残念ながら今年は総数も少なく振るわなかった。

その中で、特別賞の米子市公会堂は異彩を放っていた。保存修復の好例として評価すべきだ、として特別賞とした。市では保存と解体新築が激しく議論されたいが、行政側の判断で耐震改修をして保存修復することとなった。建設されたのは1958年、市民の募金もかなりあったから、行政側が建てて耐用年限が来たから壊す、というわけにはいかない。そうした経緯もあって保存に決したのだろう。

この間、保存を熱心に訴えた一人がJIA鳥取地域会の来間直樹さんだ。耐震改修を請け負ったのは日建設計。屋根を軽量化し、水平耐力を内側の柱列にまで引き寄せて処理した。この建物の大切なところを損なわないように細心の注意を払って耐震化した手腕は素晴らしい。市民はどこを改修したのか分からないだろう。良くできた保存耐震改修ほど目立たない。建築のアクロバットな形態を競うのとは対称的な範疇の仕事だ。建築の本義を理解し、地味で目立たないところに膨大なエネルギーを注力した姿勢を高く評価したい。(内藤 廣)

建築家 村野藤吾に敬意を払い既存の読み取りから、工事方法や素材の検証など現代の技術を総動員し、音楽ホールとしての機能をアップデートしながらも変わらないオリジナルの姿に感銘しました。今を生きる私たちが当時と変わらぬ公会堂を共有しながら日常の中で利用し、世代を越えて体験できることが何よりも建築の本質であり、米子の皆さんの念の表れのようにも感じました。人々の価値観が益々多様化する現代において、このプロジェクトが今後全国の自治体や市民に浸透し存続の危機にある多くの名建築を未来に紡いでいく事例になる意義深い取り組みでした。(前田圭介)

■住宅部門

一般部門に対して住宅部門は充実していた。こちらも年によって波がある。生活を見せていただく機会を提供して下さった建て主の方々に御礼申し上げたい。

審査委員の錦織さんは、今年はライフスタイルの審査だね、と言われた。同じく審査委員の倉森さんは、わしゃ理解できん、を連発した。前田さんは終始どの作品に対しても興味深そうだった。安心できる設計手法から生み出されるベテランの落ち着いた住宅に対して、まったく異なるアプローチで暮らし方を提案する応募作が多かった。その新しいライフスタイルにいかにか適確に建築的な答えが出されているか、それが問われている。

審査委員長 内藤 廣

・大賞「HOME BASE」



山奥のさらに奥の街、そのまた奥にこの住宅はある。設計者のお父様が建設業で、その工場を改築して自宅にしている。都会で設計を学び、Uターンで戻ってきた。夫婦と三人の子供が暮らしている。外見は普通の工場、窓には模型が並ぶ。一階は小さな設計事務所、二階に案内されると大きな空間とそれを仕切るLVLで仕上げられた巨大な壁が立ち現れる。この場所に生きる意気込みが伝わってくる。単純な構成とライフスタイル、それを空間として表現した力量を評価して今年度の住宅部門の大賞とした。(内藤 廣)

元々の倉庫の空間性が色濃く残っているHOME BASEは建築家である小林さん夫婦の自邸です。応募資料を見た時に住宅としての居場所というよりは店舗やショールーム的な空間のように感じていました。しかし現地で色々とうち、家族5人がこの住まいの中で温熱環境も含め、伸び伸びとボール遊びなど楽しみながら生活している様子が伺えました。倉庫という大きな器だからこそ住む人に、何か大らかな普段の生活とは違う行為を促すことができるように思います。コンバージョンだからこそ意図していない気積や間取り、開口の切り取り方など多くの要素を生活に変換したときに初めて新しい生活が見えてくる気がしました。(前田圭介)

・優秀賞「求院の家」



目の前には豊かな稲田の出雲平野が広がっている。稲田と家の間に道路があり、広がる景色を手に入れながら、この道路を行き交う車の往来は見たくない、これがこの建物作り方のすべてだ。居間のレベルを上げ、糸杉の生け垣で遮蔽し、生け垣の上に思い切り横長の窓を開けている。居間からの眺めは道路の往来をまったく感じさせず、その先に広がるのは素晴らしい眺めだ。プライベート空間は一段下がったところにあり、さして大きくない空間に好ましい変化を生み出している。コンパクトで良くできた空間だった。(内藤 廣)

目の前が道路であることを感じさせない断面の関係性が想像以上に効いていました。内部においてもスキップフロアの変化によって一室空間でありながら緩やかに閉じたり開いたり各室としての領域が行為によって生まれる様子が実際に訪れて感じることができました。魅力的な南北の断面と開口部をつくる構成の中で南面への開き方やテラスの使い方が少し気になりました。内外部共に使いづらい高さのようにも感じ、庭との直接的なつながりがもう少しあってもいいように思いました。(前田圭介)

・優秀賞「SOJA-0」



不思議な住宅だった。あえて間取りを作らない。住み手に聞くと、住み方がどんどん変わっていくという。場合によっては、朝と夜で変わるのだという。グリッドプランを建具で自由に仕切られるようになっている。この空間に足を踏み入れたときは驚いたが、よく考えてみれば一昔前の畳敷きの住まいならこんなことは当たり前だった。まったく現代的な手法で一昔前の住まい方に戻ったのかも知れない。ディテールへのこだわりが、このあり方に説得力を持たせている。(内藤 廣)

住宅街の一角にある敷地の中央にあっけらかんと配置された佇まいは思った以上に街に違和感なく溶け込んでいました。それは訪れた時玄関にもたれ掛けていた葦簀による生活感がそうさせたのかもしれませんが。1820 mmのモジュールによる柱が生み出す生活の自由さと不自由さが心地よく、新しい自由さを獲得しているようにも感じました。その反面、東側に集約していた水回りにおいては同モジュールや配置の自由さが感じられず居間のエリアのように大らかな設計でも良かったのではと思いました。今後家族の変化と共に空間がどのような変遷していくのか楽しみな住宅でした。(前田圭介)

・優秀賞「インナーテラスの家」



設計者の後藤さんは一昨年の住宅部門の大賞を受賞した人だ。設計手法は進化している。以前の作品は外壁に板金を使っていたが、この住宅では外壁に焼き杉の板を横貼りにしている。焼き杉の板目の模様が美しいのと、このほうが耐久性が格段に高くなるので使用したとのこと。中庭を囲んだ内部空間のさばき型は見事で、居間との空間的なつながりなど申し分ない。後藤さんは、住宅に対するアプローチと設計手法を完成させつつあるように見える。(内藤 廣)

横長に伸びる敷地に対して中央の庭とインナーテラスを内包しながらコの字型プランが印象的な平屋の住宅でした。庭を中心とし背面の山への眺望など周辺地域を丁寧に読み取りながら後藤さんらしい素材や納まりが心地よく造られていました。少し気になったのは閉鎖的に感じた北面ファサードと南面の水田への広がりに対する境界の在り方についてです。家族の暮らしを中心とした周辺環境への接続がある中で、新興住宅地の中で暮らしというものがもう少し開きながら接続できる建築と風景の可能性を考えさせられました。四季を通してインナーテラスと共に日々の暮らしを楽しんでいる施主の言葉と笑顔が建築家との良好な関係を物語っており嬉しく感じられる審査でした。(前田圭介)

・優秀賞「cell」



これも山のなかの奥のまた奥、別荘地の一面の森の中にある。十年前に出来た建物だそうだが、軒が大きく出ているので白い壁がまったく汚れていない。築後一年と言われても納得しただろう。この賞の応募規定が築後十年以内というので応募したという。夏と冬を使い分けるとい平面構成が面白い。床レベルをRCで台状に地面から切り離しているの、虫の侵入や雪に対しても対処が可能な造りになっている。(内藤 廣)

cell は竣工から10年目での応募でしたが、年数を感じさせないメンテナンスの行き届いた週末住宅であり周囲の森に対して建築とアプローチの角度がとても印象的でした。特徴的な夏と冬の居間、そして寝室部屋へとリニアに並列されたプランは大きな扉の変容性によって、内外の空間変化が季節によって楽しめる住宅でした。

設計者の考えである“夏と冬の季節に応じた住みよい場所を探しながら”というコンセプトの想像が膨らみすぎて現地審査では実際の話をついていながらも少し納得行かない点を感じました。。もっと想像を越える暮らし方をこの豊かな敷地の中で考えてみたくなりました。建築の審査は往々にして竣工後間もない場合が多いなかで、10年という時間からは暮らしの変化や耐久性、そして愛着など建築と人との大切な関係性が感じられました。(前田圭介)

・優秀賞「門前の農家」



大角さんの仕事は、もはや名人の域に達している。その大角さんの自邸だ。悪いはずがない。たくましい木造の柱と梁の完成度の高い空間は、すでに何回も見ている。外装に竹

が使われている。それが繊細で美しい。玄関にいきなり仏間が開かれているのには驚いた。合理的だ。これは新しい空間構成かも知れない。高齢のご両親が畑で働く姿を見守れるようにリビングが配置されている。何気ない気遣いが感じられる成熟した作品だった。(内藤 廣)

この周辺に古くから継承されてきた家型の風景を紡ぎながら新しくもあり、懐かしさも感じさせる大角さんの技量が光る気持ちのいい住宅でした。玄関に入った前室のような入れ子の仏間空間が印象的で柔らかに閉じながら背面の居間へ続くパッファとして機能し、中庭を中心に連続しながら田畑へと風景が連なる住まいがつくられていました。昔からこの地の住まいを肌で感じてきた大角さんだからこそ、周辺に対する作法があるように感じました。審査後、敷地をあとにして数分進んだ先にはそういった作法を無視した醜い住宅群が目に入り、この地域の未来を憂いてしまいました。丁寧に読み取りつくりあげることが如何に難しく大切なことかを考えさせられる住宅でした。(前田圭介)

・優秀賞「Cafe trois」



住宅とカフェが一体化した空間。数年前に建てられた住宅と新しく建てたカフェは一連の群造形になっていて、建物同士が楽しく会話をしているようだ。その隙間を施主が楽しみながら使っていて、そのあり方が微笑ましい。田園生活のなかの小さなファンタジーが、一連の建物群によって生み出されているように感じた。(内藤 廣)

café trois は長閑な出雲平野に呼応するかのように、竣工から3年が経ち、ようやく週末カフェが営まれてからの審査でした。予算が厳しい中で建築家は分棟案を選択し、各棟の意匠・配置など敷地周辺の風景と馴染むような場が創出され古くからこの土地に建っていたかのような佇まいが印象的で好感を持ちました。施主のライフスタイルの強さ!によって建築家 原さんの技量がいい意味で希釈されたような空気があつた場所に適しているように感じました。(前田圭介)

活動報告

■ 岡山地域会

- JIA 建築講演会「自然を生かした建築の作り方」
藤森照信氏

2016.9.9

独自の作風で人気の高い藤森照信氏ご自身から考え方や取り組み方また設計思想について聞く事ができました。建築家としてのデビュー作から最新作までの美しい写真とともに建築史家としての豊富な知識から切り取られていく建築哲学に多くを学ぶことができました。

当日は大勢の方がお集まりになり300席はすぐに満席となり、立見の聴衆の方も多くあり大盛況の講演となりました。

- 建築文化セミナー
「建築家ジェフリー・バワの建築」
岡山県立大学教授 岩本弘光氏

2017.2.3

豊富な知識と実際に現地で見られ体感されてきたジェフリー・バワの建築をご講演いただきました。

海と水と建築のつながり方とジェフリー・バワの建築思想を学ぶことができました。

- JIA 岡山学生卒業設計コンクール 2017
岡山地域会選考会

2017.2.24

岡山の大学・専門学校の卒業設計作品から全国学生卒業設計コンクールに推薦する作品を選考した。審査員長を安田幸一氏（建築家・東京工業大学教授）を迎え、公開審査で選考した。

□ その他の主な活動

建築設計5団体で作る「おかやま5会+1」でまちづくり、防災啓発活動に取り組んでいる。

岡山地域会 黒川隆久

■ 広島地域会

- JIA 広島地域会 2016 年秋イベント
担当法人協力会員：大和重工（株）
場所：大和重工（株）吉田工場

2016.9.10

「五右衛門の工場を見に行こう！」溶かした鉄を型に流し込んで、様々な製品を造る鋳造。昔懐かしい五右衛門風呂も、鋳造によって造られてきました。日本で唯一五右衛門風呂を造り続けている会社が広島にあります。豪快な製造現場を見に行きませんか？と募集をかけての工場見学となりました。

建築では「精度」を司るマテリアルの鉄を、最も原始的な製法で形造る「鋳造」。煮えたぎるマグマから生み出された製品に生命を感じるとともに、冷めた鉄の裏に秘めた灼熱のエネルギーを建築で表現したいと。鉄への欲求が大きくなったイベントでした。



- JIA 広島地域会 2016 年冬イベント
担当法人協力会員：（株）松岡製作所
場所：（株）松岡製作所広島本社・ショールーム

2016.12.5

「建築家に選ばれる日本屈指のステンレス加工技術。MATSUOKA のオーダーキッチン工場を見に行こう！」オーダーキッチンを中心に、ステンレス加工、家具製作を行っている松岡製作所。職人による手仕事から生まれるこだわりの製品とステンレス加工現場を、是非ご覧ください。の募集からの体験型見学会となりました。「有名建築家との制作実例紹介」では西沢立衛氏、中村拓志氏の作品現場の秘蔵写真なども登場し、大興奮でした。工場内では、ステンレスの溶接・研磨体験とお腹いっぱい、大満足の時間でした。



□ JIA 広島地域会 2017 年新春イベント
担当法人協力会員：(株) LIXIL 中国支社
場所：(株) LIXIL 広島ショールーム

2017.3.21

「インテリアの最新トレンドを見に行こう！」世界最大規模の見本市「チェルサイエ 2016」から最新のタイルデザイントレンドをご紹介します。また、トイレなどの水まわり空間、タイル、サッシ、エクステリアに至るまで、この春最新の住生活空間を是非ご覧ください。の呼びかけで集まりました。大手メーカーの商品開発を支えている見本市。このセミナーで国内に流通しているタイルのトレンドを追いかける術を見つけました。セミナー後のタイル施工体験もとても楽しく、やっぱりモノづくりは楽しいなと思いました。



広島地域会会長 千原康弘

■ 山口地域会
□ 河内板金工業の見学&セミナー

2016.9.8

山口県熊毛郡田布町という田舎に本社工場を構えながら全国で活躍している河内板金工業を訪問した。建築板金、金属パネルの設計から製作、施工まで一貫して建築に関わる中で設計者の意図を汲取りながら最適な解を見つけ出すという企業理念に感動を覚えた。特に複雑な三次元曲線の設計ノウハウや加工・プレス技術には驚くばかりで、ひとつのデザインファームとの出会いであった。

施工実績：日清食品グループ theWAVE (新建築 2014.5月号) 等



□ 県産材利用促進と木造新技術 CLT セミナー

2016.10.13

中規模断面集成材等のメーカーである株式会社リンケンを招いて CLT 材を中心に建築意匠・構造要素としての木質材料の利用現状および将来の可能性について見識を深めた。合わせて、山口県産材の川上、川下おいての流通、利用現状も認識した。中・大規模の設計に関してとすれば RC 造・S 造を無意識に発想しがちである我々にとって今後の発想のボキャブラリーのひとつを得たセミナーであった。



□ 環境再生フォーラム 2016N 長府
—城下町長府の街並みの形成と変遷—

2017.1.27

中国支部役員会・新年会を兼ねて継続事業である環境再生フォーラムを講師：下関市立歴史博物館 町田一仁館長を招き上記テーマで講演会を開催しました。維新のイメージが強い地区ですが、忌宮神社(いみのみや)を中心に門前町として発展したこの町の成立ちを理解して頂けたと思っています

す。また、下関の案内も兼ねて市内の近代建築も紹介しました。
またの来関をお待ちしております。



山口地域会長 田尾 繁

■ 島根地域会

JIA中国支部建築家大会IN島根の取組みについて

4月23日開催された島根地域会総会において大田市（石見銀山）を会場とすることとしました。

6月14日の役員会で、当初世界遺産石見銀山に纏わる講演会の企画も検討しましたが、江津市で「モダニズム建築と江津市庁舎とを考える」シンポジウムがあり、建築大賞の審査委員長である内藤廣氏がパネラーとして出席され、かつ日程も江津市に問い合わせると中国支部建築家大会に合わせて決まった旨お聞きし、それでは我々会員も参加することにしました。

8月5日には会場となる大田市大森町の旧大森区裁判所一町並み交流センターで役員会にて現地確認をしました。

9月26日に役員会にてタイムスケジュール他の最終確認をし、当日に臨みました。

以上報告とします。

島根地域会会長 田原辰男

■ 鳥取地域会

米子建築塾 まちトーク

米子市を中心に活動する建築家で構成される米子建築塾では、2012年から「まちトーク」というトークイベントを企画、開催してきた。このトークイベントは建築やデザイン、まちづくり等の各分野の第一線で活躍される方々を講師にお招きしお話を伺い、ディスカッションすることで地域の建築やまちづくり、社会環境を参加者と一緒に考え、地域が活力あるより豊かな場所となることを目的にしている。

2015年度は鳥取地域会に共催いただき1回開催した。

□ vol.11 國時 誠さん

「西荻窪と米子ふたつの“茶散歩”」

2016.7.23

11回目のまちトークは、東京西荻窪から國時誠さんをお招きした。西荻窪では100を超える商店参加する「チャサンポー」というイベントが開催され、國時さんはその仕掛人である。「チャサンポー」とは参加する商店がお客さんに無料のお茶をサービスし、そのことで新しいコミュニケーションを生み出すという「お散歩」イベントで、2009年に初開催。規模を拡大しながら現在に至り西荻窪の名物イベントに成長した。

3年前から米子に暖簾分けされ、同時期に開催されることになった。

國時さんからは学生時代からを展開されるアパレルブランド「STORE」のお話等も含め、Tシャツから、小さな店からはじまる活気あるまちについて興味深いお話を伺うことができた。

鳥取地域会 来間直樹

JIA 全国学生卒業設計コンクール 2016 報告

■ JIA 全国学生卒業設計コンクール 2016

2016 年 6 月 25 日、新宿アイランド南棟地下アクアプラザで全国各地から推薦された、卒業設計優秀作品 53 点を集めて開催された。25 日に第 1 次から 3 次までの公開審査が、青木淳氏審査委員長、高橋晶子氏、竹内昌義氏、名和研二氏、原田真宏氏の審査員により行われた。審査員が展示ブースを回り読み込みを行い、議論により 11 作品に絞り、出品者のプレゼン、質疑応答、協議の末、金賞、銀賞、銅賞、各審査委員賞が決定された。翌 26 日まで、出品作が同会場に展示された。中国支部から 5 名が出品したが、1 作品が 1 次通過したもの、残念ながら入賞できなかった。

【中国支部出品作品】

- ・市場 靖崇 (近畿大学)
「都市の船廠」
- ・渡部 桃子 (近畿大学)
「ART APARTMENT OF FURNITURE」
- ・山本 真実 (安田女子大学)
「0-base」
- ・藤井 隆道 (近畿大学)
「互恵の杜 - 木の畑のある暮らし」
- ・片山 静 (岡山県立大学)
「竹による儀式空間」

■ 2016 JIA 学生卒業設計コンクール中国支部優秀賞

1) JIA 岡山学生卒業設計コンクール 2017 公開審査会

[日 時] 2 月 24 日 (金)
[場 所] 朝日新聞社岡山総局 3 階会議室
[審査員] 安田幸一 (審査委員長)、黒川隆久、大石雅弘
参加校: 5 校 大学: 2 校、専門学校: 3 校 出品者: 13 人

JIA 岡山地域会が主催するコンクール 3 回目である。公開審査会は、展示された出品作品を個別に審査員が読み込みを行い、午後学生全員がプレゼンテーションを行い、審査員と質疑応答の後入賞者が選考された。最優秀賞、優秀賞 2 作品、奨励賞が 4 人に授与表彰された。

- ・JIA 岡山最優秀賞 東岡さくら (岡山県立大学)
「Toward Heaven」
- ・JIA 岡山優秀賞 坂本佳子 (岡山県立大学)
「栖みつく」
- ・JIA 岡山優秀賞 森山智弘 (岡山理科大学)
「連なる屋根、繋がる古道」
- ・JIA 岡山奨励賞 春名将至 (中国デザイン専門学校)
「filter—自然と共生する 4 枚の羽衣」



2) 広島 8 大学卒業設計展 2017

[日 時] 3 月 2 日 (木) ~ 3 月 7 日 (火)、公開審査 7 日 (火)
[場 所] 旧日本銀行広島支店
[審査員] 山本理顕 (審査委員長)、遠藤秀平、藤原徹平
末光弘和

参加校数: 13 校 大学: 10 校 / 専門学校: 1 校 / 高専: 2 校、
出品者 82 名

広島 8 大学卒業設計展は、広島・山口県内の大学学生が主体となり企画され、中国支部の他大学を招待校として開催されている。審査員の全作品の読み込みにより第 1 次通過作品を選び、その後プレゼンテーション、質疑応答、審査員協議により、最優秀賞 1 点、優秀賞 3 点、各審査員賞を選んだ。最優秀賞、優秀賞等の作品に、JIA 中国支部学生卒業設計コンクール優秀賞を授与した。この 4 点を全国コンクールへ 2016 出品作として推薦する。

- ・最優秀賞 / 藤原賞
西山 菜月 (山口大学)
「生業がつなぐ 暮らしの森」
- ・優秀賞
長谷 葉月 (島根大学)
「誘う小路」
- ・優秀賞
長原 みずほ (穴吹デザイン専門学校)
「垣根のない宿」
- ・優秀賞 / 山本賞
藤原 陽平 (広島工大)
「アートの拠点」
- ・遠藤賞
長木 奈々 (広島大学)
「鉾山都市の記憶」
- ・末光賞
奥野 和希 (近畿大学)
「自然形態に巣くうコミュニティ」

全国学生卒業設計コンクール委員 山田孝延



第20回 JIA リフレッシュセミナー 2016 参加報告

開催期間：2017 年 3 月 5 日（日）～ 7 日（火）

会場：東京都設計事務所健康保険組合

熱海リフレッシュセンター

駅からのすごい坂道、こりゃ逃げ出せないね ---

熱海、リフレッシュ・・・・・・ 湯婆婆???

建築の拡張と深化について、拡張（規模や範囲を大きくひろげること）深化（物事の進み具合が深くなること。また、深めること）今までと違う建築までのアプローチ／伝統の継承から生まれる新しい考え方をテーマに「建築の拡張」として古澤様からは、**コミュニティがあれば場はいらない**。ん、建築はいらないのか。など思いながら東小金井の高架下の空間が今までにない新鮮な人々の出会いの場・コミュニティ、となるまでの人と人のつながり関わり方を建築家として、積極的に世間に対しあらゆるメディアに関わり発信し、関わる人たちをチューニングしてしまうまでの苦労・覚悟による関わりが新しい形での建築設計の拡張を見ました。

また、「建築の深化」として山田様からは、伝統と向き合う章では、現在の構造基準に合致させる為に伝統を継承しながらの補強方法、つくり方を考えるの章では、既存の工法にとらわれることなく材料の特性を利用し、あらゆる架構での木組をあみだされ、最新の技術をハイブリットでの新しい木の使い方を確立されるまでの、材料調達から現場監督に怒られた話までの苦労・覚悟が木構造についての大きな方向性を示されたことが木架構の深化をみました。

今回のセミナーで改めて勉強させていただいたことは、**場所が持つ魅力・特性が新しい価値観を生み出せる**、設計を心掛け、いつの時代でも新鮮で不思議な空間をつくり続けたいと思いました。

今回、リフレッシュセミナーを企画していただいた、福島様をはじめ役員の皆さま3日間ありがとうございました。お疲れさまでした。

岡山地域会 大月 始

JIA 中国支部 災害対策委員会活動報告

2017.3.27

■ 鳥取県中部地震における中国支部の対応

地震直後、委員長より鳥取地域会長に電話をし被災状況を確認したところ、鳥取市内（県東部）での被害は少ないようであるとの報告であった。倉吉市（県中部）の元会員井手添氏に連絡すると、向かいの住宅の瓦、外壁の破損等を確認したとのこと、倒壊の情報は入っていない模様であった。米子市（県西部）も被害は少ない見通しである。そのほか岡山地域会長、広島県（中国支部事務局）、山口地域会長に連絡を取ったところ、いずれの地域も揺れは感じたが被害情報は入っていない等のやりとりがあった。

以上の聞き取りをした上で亀谷支部長に状況の報告をし、どの地域も特に大きな被害を受けてはいないようなのでしばらく様子を見ることを申し合わせた。

後日、鳥取県から『県内での対応が可能なので J I A から援助に出向いてもらう必要はない』とする申し出があった旨、鳥取地域会長より連絡を受けた。それを受けて「中国支部災害対策特別委員会」の立ち上げを見送った。

■ 鳥取県中部地震の概要

2016 年（平成 28 年）10 月 21 日 14 時 07 分ごろ鳥取県中部を震源として発生した。地震の規模は M（マグニチュード）6.6 で、震源の深さは 11 k m。最大震度 6 弱を鳥取県倉吉市、湯梨浜町、北栄町で観測したほか、遠く関東地方から九州地方までで震度 1 以上の揺れを感じた。

<被害・影響>

鳥取県内を中心に住宅の屋根瓦や壁が崩壊する被害が相次いだ。2017 年（平成 29 年）1 月 26 日現在、住宅の全壊 16 棟、半壊 251 棟、一部破損 14,186 棟が確認されている。住居の損傷が酷い地域では避難生活を強いられ、数十人の負傷者も発生したが、死者は出なかった。

国の重要伝統的建造物群保存地区である倉吉市の白壁土蔵群では建物の漆喰の壁が剥がれ落ち、近隣の国の登録有形文化財の銭湯「大社湯」でも浴室に貼られていた明治時代の特注品のタイルが大量に剥がれ落ちるなどの被害があった。また、広島県竹原市にある国の重要文化財「復古館頼家住宅」で瓦が 10 枚程度落下、鳥根県松江市にある松江城で石垣の間を埋める石が落下するなど広い範囲で文化財への被害が発生している。

<災害対策委員会>

2016 年（平成 28 年）11 月 18 日、鳥根県江津市 江津ひとまちプラザ多目的ホールにて J I A 中国支部災害対策委員会を開催した。

先の鳥取県中部地震を受けて委員会での申し合わせ事項確認のため急きょ開催した。各自が災害時の対応について再確認した。

中国支部災害対策委員会 委員長 村重 保則

福岡の文化と熊本地震から学ぶ交流事業

昨年、九州では熊本地震や博多駅前陥没事故など大変な被害が出ました。こんな時だからこそ九州支部の会員を元気づけてあげたいという思いもあり、九州支部災害対策委員長の水野宏氏に案内をお願いしました。交流部会員と正会員とが一緒に時間を過ごし、九州の文化に触れ、地震被災地を訪れて生の体感を通して学ぶことを目的に交流事業を開催しました。

期間：2017年3月3日（金）～4日（土）

参加人数：水野氏、正会員10名、交流部会員4名、計15名

■ 1日目 3月3日（金）

□ TOTOミュージアム（梓設計）

創立100周年を記念して2015年に建設された水滴ドーム形状のミュージアムである。便器など水廻り製品の製造技術開発に100年間熱意を持って弛まぬ努力を継続されている。

フタのない国産初の陶器製腰掛け便器、国内初の座板とフタが木製で創られた高級便器、野老朝雄氏による組市松紋の便器などデザインが素晴らしかった。



□ 門司ゴルフ倶楽部（アントニン・レーモンド）

著名な建築家の設計による贅沢な空間で昼食とした。2階ダイニングルームの小屋組丸太、中央の大きな暖炉、高窓採光の開放空間が印象的であった。JIA25年賞に相応しく建設当時のまま使用されており、最近のゴルフシューズでは音が出るので床の磁器質タイルをカーペットの置敷に変更されているだけであった。



□ 西日本工業倶楽部・旧松本家住宅（辰野金吾）

明治専門学校（現九州工業大学）の創立者のひとりである松本健次郎の自宅と学校迎賓館を北九州経済人の集まりである西日本工業倶楽部が譲り受けた建物である。日本における本格的なアール・ヌーヴォーで内外とも創られており感銘を受けた。



□ アイランドシティ中央公園

体験学習施設ぐりんぐりん（伊東豊雄）

伊東豊雄氏らしさが出ている素晴らしい作品でした。建設後10年経過し、植物園の背の高い植物がガラス屋根に突き当たるため枝が途中で切断されており、展示植物の選定が悔やまれる。植物園には白い羽根に黒斑点模様のオオゴマダラ蝶々が人を気にせず飛び交っている。さなぎからの成長観察もできる。



□ ネクサスワールド（6人の建築家）

バブル期に国内外の建築家6人が設計したデザイナーズマンションが建ち並んでいる。日本であることを忘れるような国際色豊かな多種独特な雰囲気がある。



□ 懇親会（ウイズ・ザ・スタイル）

水野さんの他に、九州支部長はじめ7人の九州支部の会員や交流部会員が加わり懇親会を催した。フランス料理とワインに舌鼓をうちながら、2時間にわたって各支部の活動状況などを語らい和やかな雰囲気で大いに親睦を深めた。

■ 2日目 3月4日(土)

□ 九州芸文館

(隈研吾+日本設計) 本館・アネックス2

(末光弘和+末光陽子/ SUEP +日本設計) アネックス1

芸術文化交流施設として、それぞれ特徴のある3つの棟で構成されている。構造体もS造・RC造・W造と3様となっている。細かなディテールや大胆で斬新なデザインが印象的であった。



□ 益城町テクノ・西原村小森仮設住宅 みんなの家

昼食を挟み仮設住宅を2団地視察した。小森第2仮設団地の「縁側のあるみんなの家」は、柱脚を方杖で固めて耐力を保持した全面ガラス張りの集会所である。中の様子が一目でわかり住民を見守る行燈のような建物となっている。訪れた時も開放的な雰囲気の中で子ども達が集まって楽しく遊んでいた。ボランティアの高校生が花を植えて花壇を作ってあげたり、大学生が被災者の話し相手になってあげたりと若者の心優しい行動に胸が詰まる。



□ ましきラボ

熊本大学復興支援プロジェクトが河川公園にまちづくり拠点としてコンテナ造のサテライトラボを開設している。住民との対話やワークショップなどの活動内容を聞いた。活動成果を復興ニーズに多面的に活用したいという構想を持っておられる。



□ 益城町被災地視察

家屋を解体して更地となっている所が目立つ。未だ倒壊した当時のままの状態が残っている家屋も多い。駐車場の白線や道路のセンターラインのずれから地震時の断層ずれが確認された。



□ 熊本城

地震による被害が甚大で立入禁止区域が広く、二の丸広場へ向かいながら遠方から見学した。石垣、塀、櫓、屋根瓦などの損傷が目立つ。国の重要文化財の復旧には何十年もの時間が必要と思われる。広場では元気づけのイベントが開催されていた。



□ 熊本駅・解散

交流事業も当初の予定以上の場所を巡ることができ、参加者全員アクシデントもなく無事に終了することができた。熊本駅で解散、各自疲れた体で帰路へついた。

みなさん、大変お疲れ様でした。

この交流事業の趣旨に賛同頂き、視察期間中、現地のみならず移動バスの中でも色々説明を頂いた九州支部の水野さん、大変ありがとうございました。また、交流事業開催にあたり、企画、準備、調整をして頂いた岡山地域会の藤田さん、大光電機の松永さん、大変お世話になりました。藤田さんには2日間添乗員の役目も担って頂き感謝申し上げます。

事業委員長 田中輝幸

■ JIA 中国支部組織表

2017年3月27日

担当	委 員 会 名			委 員	活 動 内 容
大旗副支部長 (総務担当)	支部総務委員会	委員長 副委員長	赤木 定 (岡山) 久保 紳哉 (山口)	土田 利行 (岡山) 高志 俊明 (広島) 久保 紳哉 (山口) 田原 辰男 (島根) 萬井 博行 (鳥取)	・本部総務委員会対応 ・事業および財務会計管理 ・総会の企画、運営 ・事務局補助 ・入退会審査 ・会員の管理、会員会費の管理 ・支部（地域会）事務局、職員に関する事項
	支部広報委員会	委員長 副委員長	佐々木 満 (岡山) 赤木 定 (岡山)	武村 耕輔 (岡山) 千原 康弘 (広島) 山根 満広 (山口) 山根 秀明 (島根) 小林 和生 (鳥取)	・本部広報委員会対応 ・ホームページ管理、更新 ・アンニュアルレポート作成 ・全国広報委員長会議対応
	支部フェローシップ委員会	委員長 副委員長	中桐 慎治 (岡山) 大月 始 (岡山)	中桐 慎治 (岡山) 高志 俊明 (広島) 松岩 強司 (山口) 矢田 和弘 (島根) 戸井 茂 (鳥取)	・本部フェローシップ委員会対応 ・会員増強 ・会員名簿の管理作成（手帳他） ・支部、地域会規約、規則に関する事項
	支部教育・表彰委員会	委員長 副委員長	山田 孝延 (岡山) ()	平山 文則 (岡山) 岡河 寛 (広島) 井上 敏雄 (山口) 金坂 浩史 (島根) 来間 直樹 (鳥取)	・本部教育・表彰委員会対応 ・本部国際交流委員会対応 ・J I A 建築と子供たち会議(仮称)対応 ・全国卒業設計コンクール実行委員会対応 ・J I A 25年賞支部選定に関する活動 ・建築学会賞の選考に関する活動 ・その他支部、地域会の教育表彰に関する活動
	支部建築相談委員会	委員長 副委員長	宇川 民夫 (岡山) 高橋 幸子 (広島)	宇川 民夫 (岡山) 高橋 幸子 (広島) 栗林 隆 (山口) 松倉 慎治 (島根) 杵村 優一郎 (鳥取)	・J I A 建築相談会議対応 ・支部内の建築相談への対応 ・各地域会「建築相談室」の統括調整
藤田副支部長 (事業担当)	支部事業委員会	委員長 副委員長	田中 輝幸 (山口) 今川 忠男 (広島)	大瀧 珠乃 (岡山) 今川 忠男 (広島) 田中 輝幸 (山口) 白根 博紀 (島根) 塚田 隆 (鳥取)	・本部公益事業委員会対応 ・支部事業の統括 ・支部公益事業の企画運営
	支部環境委員会	委員長 副委員長	大角 雄三 (岡山) ()	岸本 泰三 (岡山) 今川 忠男 (広島) 山下 昌伸 (山口) 古山 篤志 (島根) 戸井 茂 (鳥取)	・J I A 環境会議対応
	支部保存再生委員会	委員長 副委員長	今川 忠男 (広島) 中村 陽二 (岡山)	中村 陽二 (岡山) 今川 忠男 (広島) 三村 夏彦 (山口) 江角 俊則 (島根) 木下 正昭 (鳥取)	・J I A 保存再生会議対応
	支部まちづくり委員会	委員長 副委員長	山田 暁 (岡山) 高志 俊明 (広島)	山田 暁 (岡山) 高志 俊明 (広島) 谷川 清志 (山口) 尾川 隆康 (島根) 萬井 博行 (鳥取)	・J I A まちづくり会議対応
	支部住宅部会	部会長 副部会長	来間 直樹 (鳥取) ()	神田 二郎 (岡山) 赤澤 輝彦 (岡山) 和田 洋子 (岡山) 佐渡 基宏 (岡山)	・支部の住宅を中心にした活動を統括
	支部交流部会	部会長	松永 高雄 (広島)		・支部活動全体の支援 ・会員間の情報交換、交流の活性化
龜谷支部長	支部大会 実行委員会 (2017年度)	実行委員長 実行幹事	田尾 繁 (山口) 久保 紳哉 (山口)	黒川 隆久 (岡山) 千原 康弘 (広島) 田尾 繁 (山口) 田原 辰男 (島根) 塚田 隆 (鳥取)	・中国支部大会企画運営
	JIA中国建築大賞 実行委員会 (2017年度)	実行委員長 実行幹事	黒川 隆久 (岡山) 佐々木 満 (岡山)	黒川 隆久 (岡山) 千原 康弘 (広島) 田尾 繁 (山口) 田原 辰男 (島根) 塚田 隆 (鳥取)	・中国建築大賞企画運営
	支部災害対策委員会	委員長 副委員長	村重 保則 (山口) 久保井 邦宏 (広島)	各地域会長 各地域会担当幹事	・本部J I A災害対策会議対応 ・支部災害緊急対策マニュアルの作成
	支部基本政策会議	議長	龜谷 清 (島根)	支部長経験者	・支部の長期的政策について
	支部地域会長連絡会議	議長	龜谷 清 (島根)	各地域会長他	・支部各地域会の連絡調整 ・本部事業改善委員会対応 ・本部財務事業管理委員会対応
	支部事務局	常任幹事 副常任幹事	久保井 邦宏 (広島) 武田 賢治 (岡山)	(支部事務局) (地域会事務局)	・会議の運営、司会、事務局との連絡調整 ・全国建築家大会等への対応
	支部選挙管理委員会(非常設)		山田 暁 (岡山)		・本部選挙管理委員会対応 ・役員選挙時の運営管理
	支部建築家資格制度実務委員会	委員長 副委員長	堤 敏明 (広島) ()	高田 一 (岡山) 堤 敏明 (広島) 永見 龍一 (山口) 増野 元泰 (島根) 塚田 隆 (鳥取)	・本部職能資格制度委員会対応 ・建築家認定評議会対応 ・実務訓練対応 ・登録建築家審査等
	支部職責委員会	委員長 副委員長	山田 暁 (岡山) ()	山田 暁 (岡山) 堤 敏明 (広島) 久保 紳哉 (山口) 小暮 伸春 (島根) 杵村 優一郎 (鳥取)	・本部職責委員会対応 ・本部懲戒審査委員会対応

注1：活動は年単位を基本とする

2016 年度 2017 年度
(公社)日本建築家協会中国支部 役員

支部長	龜谷 清	島根	
直前支部長	山田 暁	岡山	
副支部長	大旗 健	広島	
副支部長	藤田 佳篤	岡山	
地域会長兼任支部幹事	黒川 隆久	岡山	
地域会長兼任支部幹事	千原 康弘	広島	
地域会長兼任支部幹事	田尾 繁	山口	
地域会長兼任支部幹事	田原 辰男	島根	
地域会長兼任支部幹事	塚田 隆	鳥取	
支部幹事	武田 賢治	岡山	
支部幹事	赤木 定	岡山	
支部幹事	久保井 邦宏	広島	
支部幹事	高橋 幸子	広島	
支部幹事	田中 輝幸	山口	
支部幹事	久保 紳哉	山口	
支部幹事	松倉 慎治	島根	
支部幹事	来間 直樹	鳥取	
支部幹事			
支部監査	宮崎 勝秀	岡山	
支部監査	元廣 清志	広島	

■中国支部会員リスト（2017 年 3 月末日 / 平成 29 年 3 月末日）

正会員 138 名 / 準会員、専門会員 2 名 / 準会員、ジュニア会員 2 名 / 準会員、学生会員 4 名 / 法人協会員 27 社 / 岡山地域会法人協会員 7 社

<岡山地域会>（正会員 50 名 / 準、専門会員 1 名 / 準、学生会員 4 名 / 法人協会員 7 社） 赤木定、赤澤輝彦、岩本弘光、上田恭嗣、宇川民夫、大石雅弘、大角雄三、大瀧珠乃、大月始、織田博充、神家昭雄、神田二郎、岸本泰三、貴田茂、木村旭、倉森治、黒川隆久、佐々木満、佐藤正平、佐渡基宏、柴田晴夫、塩飽繁樹、新谷雅之、菅野憲、高田一、武田賢治、武村耕輔、塚本雅久、土田利行、寺越則人、中桐慎治、中田利幸、中村陽二、櫛村徹、丹羽雅人、花田則之、檜尾篤志、平山文則、福森英樹、藤澤敏典、藤田佳篤、宮崎勝秀、森原通仁、山下敬広、山田暁、山田孝延、山名千代、湯浅康生、渡辺俊雄、和田洋子 / 新田一真 / 東居優典、村上茂輝、中本清彦、茂中大毅 / ㈱みのるガーデンセンター、㈱ビィーティーエス、㈱岡山マドコン、扶桑電機工業㈱岡山営業所、山金工業㈱岡山出張所、㈱建築資料研究社岡山支店、㈱ L.I.B <広島地域会>（正会員 41 名 / 準、専門会員 1 名 / 準、ジュニア会員 2 名） 石田平二、今川忠男、今村正則、岩本秀三、大江弘康、大旗健、大旗祥、岡河貢、沖本初、奥迫貢一、奥田實、梶本正博、河口佳介、久保井邦宏、高畑憲明、後藤重貴、三分一博志、柴田安章、杉田輝征、高志俊明、高橋幸子、竹内謹治、谷尻誠、垂井俊郎、千原康弘、堤敏明、土井一秀、土肥晶仁、仲子盛進、中園哲也、錦織亮雄、藤本和男、藤本寿徳、前岡智之、前田圭介、正木繁康、三島久範、宮野鼻啓二、宮本剛、元廣清志、八納啓造 / 瀧口信二 / 小泉満、中原貴夫 <山口地域会>（正会員 19 名） 井上敏雄、岡村和典、久保紳哉、窪田勝文、栗林隆、佐田祐一、田尾繁、田中章、田中輝幸、谷川清志、永富誠、長野英彦、永見龍一、西村彰和、松崎強司、三村夏彦、村重保則、山下昌伸、山根満広 <島根地域会>（正会員 21 名） 石倉保富、江角彰宣、江角俊則、尾川隆康、小草伸春、金坂浩史、龜谷清、白根博紀、櫻石友秋、田原辰男、寺本和雄、原浩二、古山篤志、増野元泰、松倉慎治、三原貞則、村上修二、矢田和弘、矢野敏明、山根一史、山根秀明 <鳥取地域会>（7 名） 杵村優一郎、木下正昭、来間直樹、小林和生、塚田隆、戸井茂、萬井博行 <法人協会員>（27 社） コクヨマーケティング㈱、三協立山㈱、三和シャッター工業㈱、三建設備工業㈱中国支店、大光電機㈱中国支店広島営業所、中国電力㈱広島営業所、東芝エレベータ㈱中国支社、TOTO ㈱中国支社、㈱ノザワ広島支店、㈱日立ビルシステム中国支社、㈱松岡製作所、三菱電機ビルテクノサービス㈱中国支社、パナソニック㈱エコソリューションズ、小松ウオール工業㈱、㈱総合資格、カワノ工業㈱、㈱ティ・シー・シー、㈱ LIXI 中国支社、大和重工㈱広島営業所、DIC デコール㈱大阪支店、㈱鹿島技研、㈱中建日報社、土江建材 T・K ボルト、㈱エフワンエヌ中国支店、オスモ&エーデル㈱、㈱リンケン、クリヤマ㈱広島営業所
